

NEWS RELEASE

報道関係者 各位

2020年5月12日
国立大学法人 東京農工大学
学校法人 東京農業大学
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所

クマそれぞれのお食事メニュー ～性別と年齢で変わる食生活～

ポイント

- ・ ツキノワグマの食生活を調べたところ、個体の性別・年齢、年によるドングリの結実量の違いによって、食事のメニューの構成が異なっていた。
- ・ 夏には若いクマ（1-4歳）より成熟したクマ（5歳以上）のほうが、メスよりもオスのほうが、よりニホンジカを食べていた。
- ・ 秋にはどのクマもドングリに依存した食生活を送るが、メスや若いクマはドングリが不作の年に昆虫等の動物質をやや多く食べ、成熟したオスは豊作の年でも一定の量の動物質を食べていた。
- ・ ツキノワグマの食生活は老若男女で異なることから、食べ物を求めて人里へ出沒する個体の原因や特性の検証が可能となり、ツキノワグマの科学的な保護管理に役立つ。

本研究成果は、日本の哺乳類学誌「Mammal Study（略称：Mamm Stud）」オンライン版（4月15日付）及びVol45 No.2（4月30日付）に掲載されました。

論文名：Age- and sex-associated differences in the diet of the Asian black bear: importance of hard mast and sika deer

著者名：Tomoko Naganuma, Shinsuke Koike, Rumiko Nakashita, Chinatsu Kozakai, Koji Yamazaki, Shino Furusaka and Koichi Kaji

URL：<https://bioone.org/journals/mammal-study/volume-45/issue-2/ms2019-0051/Age--and-Sex-Associated-Differences-in-the-Diet-of/10.3106/ms2019-0051.full>

概要

国立大学法人東京農工大学大学院グローバルイノベーション研究院の長沼知子特任助教、農学研究院自然環境保全学部門の小池伸介准教授、東京農業大学、森林総合研究所らの共同研究チームは、ツキノワグマ（以下、クマ）の食性（注1）と、クマの性別・年齢、ブナ科堅果（いわゆる、ドングリ）の結実豊凶（注2）の関係を調べました。この結果から、クマは性別や年齢によって食べ物の構成割合の割合が異なっているという新しい知見が得られました。

研究背景

雑食動物は、植物質から動物質まで幅広い種類の食べ物を利用する一方、肉食に近い個体からはほぼ草食の個体まで、個体による食性の違いが大きいことが知られています。クマも雑食動物で、季節に合わせて様々な種類の食べ物を選択しますが、個体による食性の違いは知られていませんでした。日本では毎年数千頭以上のクマが人里に出沒するなどして捕殺されています。クマの人里への出沒の原因は、山のドングリの不作や人里で放棄された果樹への誘引など、食べ物が関係することが知られています。ところが、捕殺される個体の性別や年齢には偏りが見られ、個体ごとの食性の違いが影響している可能性があります。そこで本研究では、同じ地域に生息するクマの食性が性別や年齢によって違うのか、また、その違いをもたらす要因は何かを明らかにすることを目的に、性別・年齢、ドングリの結実量の違

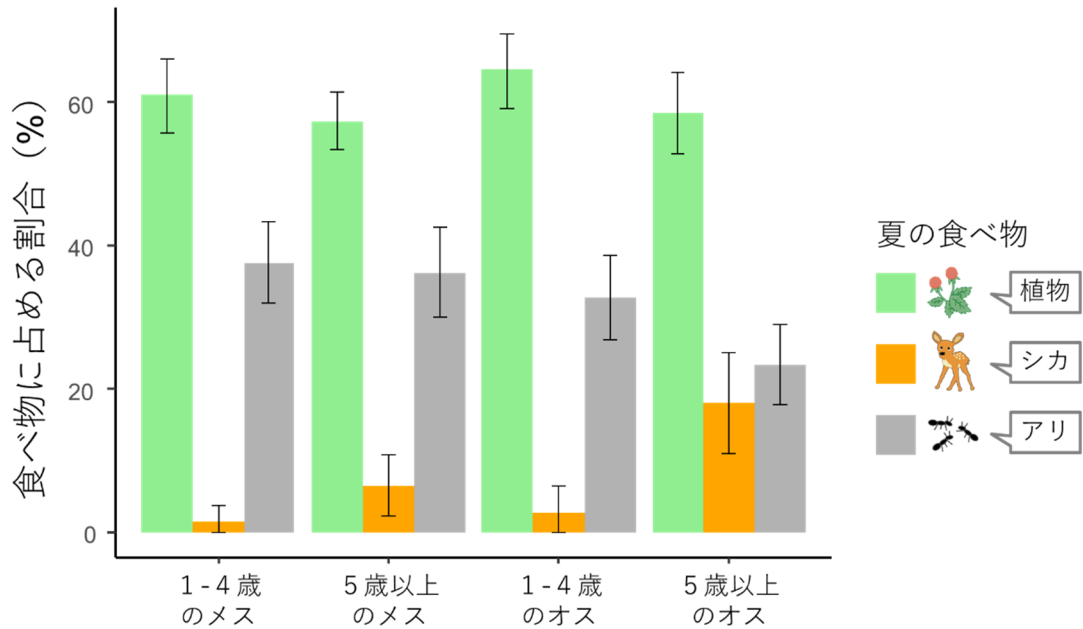


図1. 夏のクマの食べ物全体に占める「植物（果実など）」、「シカ」、「アリ」が占める割合の平均値と95%信用区間。

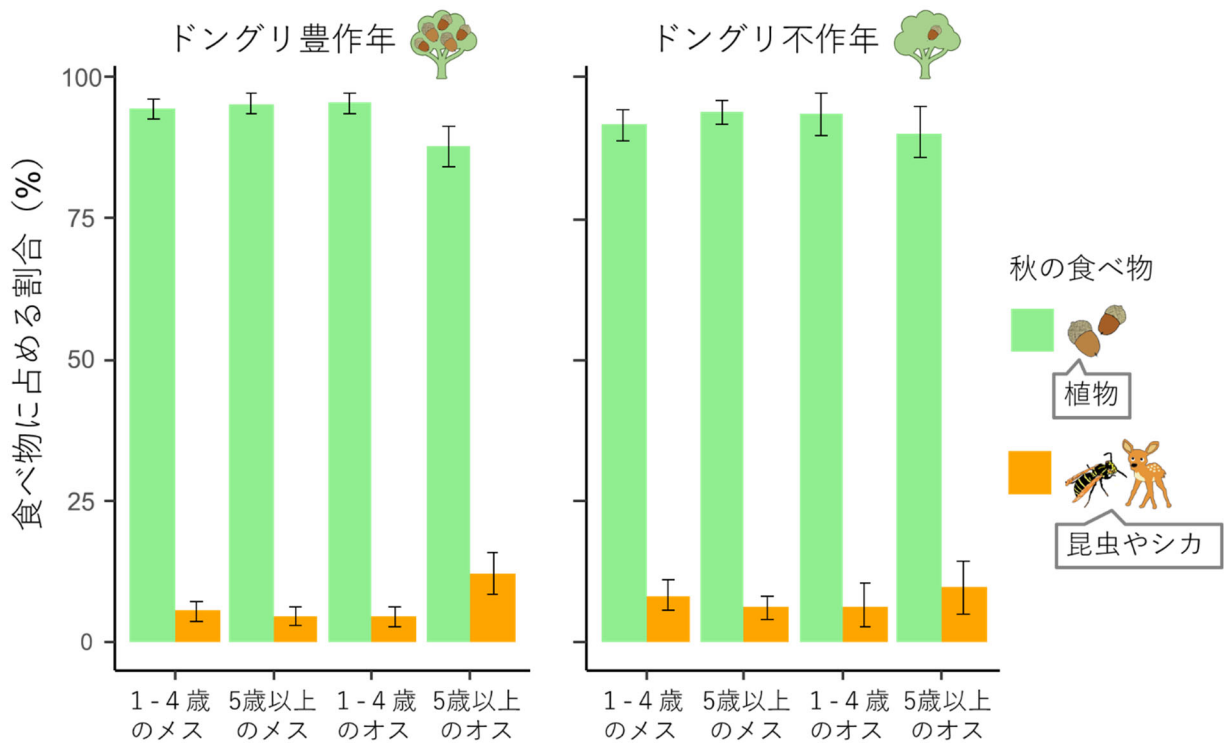


図2. 秋のクマの食べ物全体に占める「植物（ドングリなど）」と「昆虫（スズメバチなど）やシカ」の割合の平均値と95%信用区間。秋はほとんどアリを採食しないため図には示していない。



図3. シカを食べるツキノワグマ（撮影：横田博）。春に撮影。体の大きさからシカ成体の死体と思われる。

◆研究に関する問い合わせ◆

東京農工大学大学院グローバルイノベーション研究院 特任助教

長沼 知子（ながぬま ともこ）

学校法人東京農業大学 経営企画部

田中 康弘（たなか やすひろ）

堀 詩以奈（ほり しいな）

森林総合研究所 野生動物研究領域 主任研究員

中下 留美子（なかした るみこ）